

田んぼのまわりには、  
どんな生きものがあるのだろう。



さあ、  
田んぼのまわりを  
探検しよう!

田んぼのまわりは  
とっても不思議な世界。

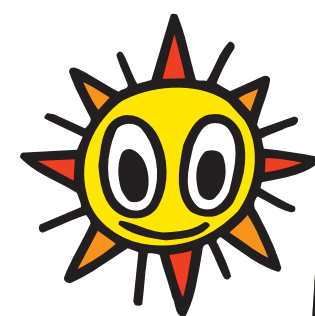


東京都中央区立佃島小学校5年生の皆さん

詳しい情報は [田んぼの生きもの調査](#)

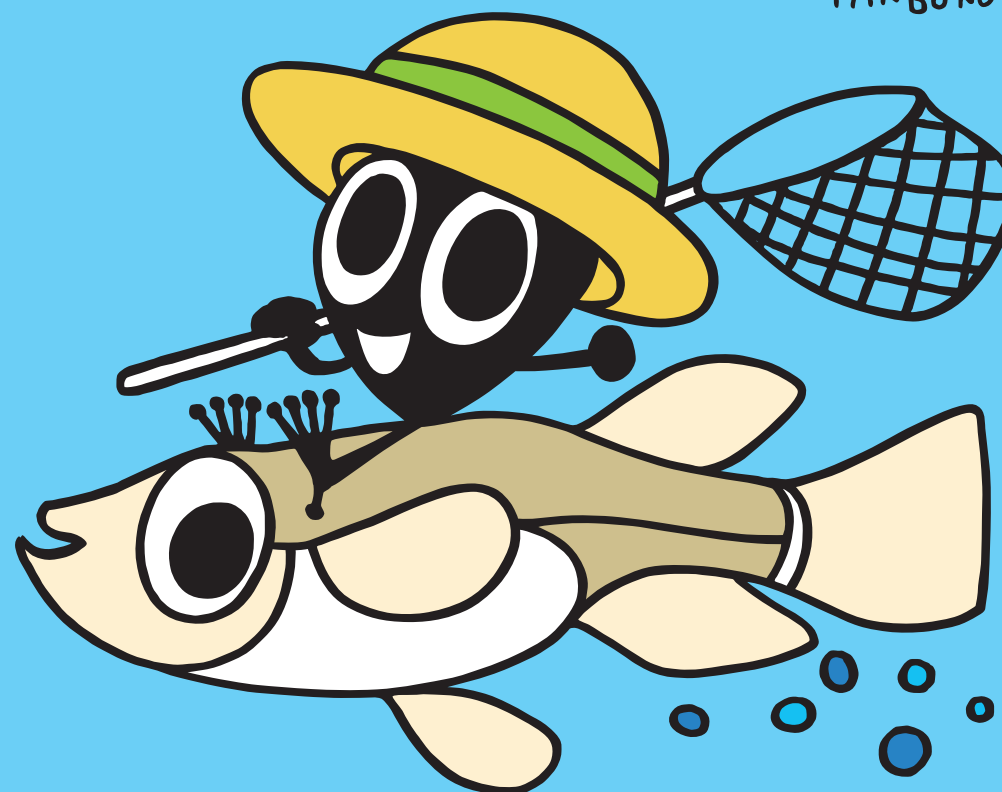
[検索](#)

お問い合わせは 農林水産省 農村振興局 地域計画官室 03-3502-8111 (代)



# 田んぼの 生きもの調査

"TANBO NO IKIMONO CHOSA"



農林水産省



環境省



# 田んぼや水路は、生きものの楽園。

お米を作り、いのちを育む。



## 生きものを育む

植物、トンボなどの昆虫、メダカ、カエル、鳥など、いろいろな生きもののいのちを育てています。たとえば、メダカは、田んぼで産卵し、水路などで生活・越冬し、また、田んぼで産卵するといったサイクルをくり返します。

山間の田んぼのまわりでは、アブラハヤやヤマアカガエルが見つかったよ。



アブラハヤ

ヤマアカガエル

かんせんようすいりょう 幹線用水路に、オイカフやカフムツがいるんだね!



オイカフ

カフムツ

(ドジョウ・タモロコ・ドンコ)

田んぼのまわりには、カエルがたくさんいるんだね。



ニホンアマガエル

トノサマガエル

かんせんはいすいりょう 幹線排水路には、ドジョウやタモロコがいたよ!



ドジョウ

タモロコ

(モツゴ・カフムツ・オイカフ)

田んぼのまわりで、ドジョウやメダカを見つけたよ!



ドジョウ

メダカ

(タモロコ・モツゴ・ギンブナ)

## 美しい風景を生み出す

季節ごとの美しい風景を生みだし、そこでくらす人、訪れる人の心をなごませます。

## 文化を守り伝える

お祭りや年中行事など、農業と深く結びついた伝統文化を守り伝えています。

## お米を作る

おいしく、栄養のバランスに富んだ日本人の主食として愛されているお米を作ります。

日本の幹線農業水路の長さを足すと約4万5千km、さらに小さな農業用の水路を含めると、その長さは約40万km。地球10周分の長さに相当するといわれています。

## 心と体を元気にする

田んぼの生きものや自然にふれて楽しむことで、心と体をリフレッシュします。

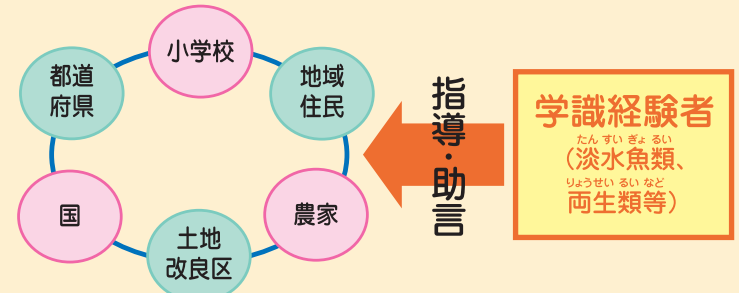
## さいがい 災害からくらしを守る

雨水を一時的にため、洪水や土砂くずれなどの自然災害を防ぎます。

## 「田んぼの生きもの調査」って何だろう

農林水産省では、自然と共生する地域づくりをすすめる一環として、平成13年度から環境省と連携して、「田んぼの生きもの調査」を実施しています。

### 調査実施体制



## 全国の小学生も調査に参加しているよ!

生きもの名前は、写真をもとに専門家が確認しています。  
どうして (写真同定と言います)



魚 調査票

1. 調査地点

県名 地区名

実施機関名

カエル 調査票

1. 調査地点

県名 地区名

実施機関名





# 調査1

# 田んぼや水路には、どんな魚がいるのだろうか？

## 田んぼのまわりにすむ魚たち

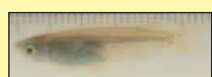
平成13年度から18年度までの6年間の調査で、27科124種が確認されました。これは日本に生息する淡水魚約300種の約41%にあたります。

## 農村地域でよく見られる魚たち

### 田んぼのまわりの水路



①ドジョウ 12cm



②メダカ 4cm



③タモロコ 10cm

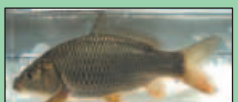


④モツゴ 8cm

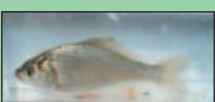
### 両方で見られる



⑤オイカワ 15cm



コイ 60cm



ギンブナ 25cm

### 川



アユ 20cm



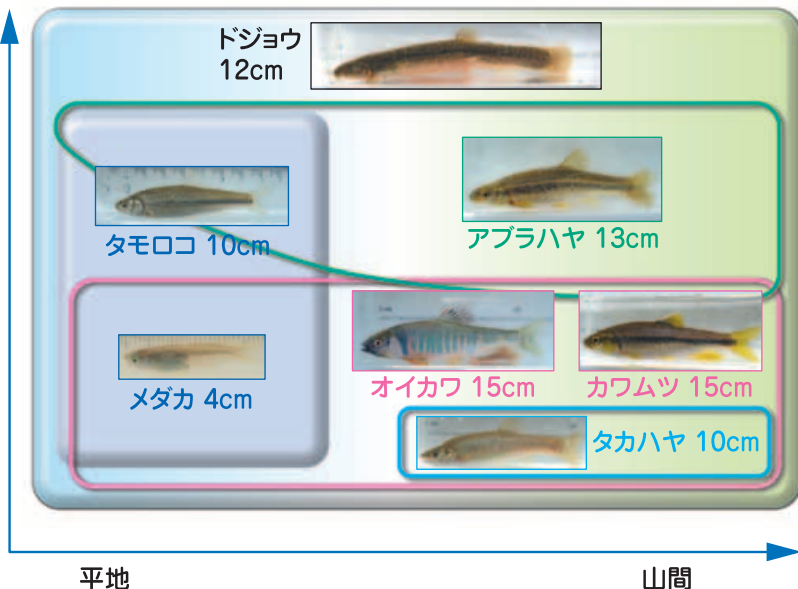
ウグイ 30cm

魚はその種類によって、好む環境や生活の場が異なるため、田んぼや水路、川だけにすむ魚、移動しながらどちらにもすむ魚などがあります。調査の結果、これらの魚のすむ場所の違いが確認されました。

※①～⑤は、田んぼの生きもの調査で確認された地域が多い順番を表しています。

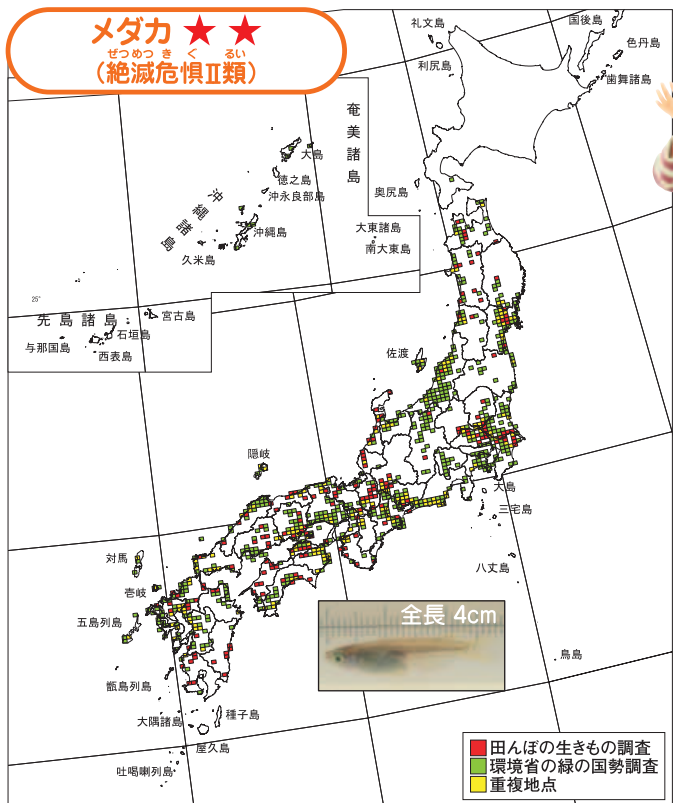
## 場所により生息する魚が変わることを確認

北海道  
東北  
関東  
北陸  
東海  
近畿  
中国四国  
九州  
沖縄



ドジョウは沖縄を除く全国のほとんどの地域で、平野から山間部まで広くすんでいる、農村地域の代表的な魚といえます。また、アブラハヤとオイカワは東日本と西日本に、タモロコやメダカとタカハヤは平地と山間で、すむ場所が分かれていることが確認されました。

## メダカ★★★ (絶滅危惧Ⅱ類)



## き しょう しゅ 希 少 種

### 確認された主な希少種



### ★★★★ (絶滅危惧ⅠA類)



ニッポンバラタナゴ 5cm  
体高が高く、腹びれ前縁は白くない

★★★★★  
(絶滅危惧ⅠA類)  
ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種

★★★★  
(絶滅危惧ⅠB類)  
★★★★ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種

★★★  
(絶滅危惧Ⅱ類)  
絶滅の危機が増大している種

★  
(準絶滅危惧)  
現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種



ホトケドジョウ 6cm  
体は太くて短く、口ひげは8本ある



カワバタモロコ 5cm  
体高はやや高く、口は斜め上を向いて開く

### ★★★★ (絶滅危惧ⅠB類)



スジシマドジョウ小型種 5cm  
体の側面に線や点列状のすじがあり、口ひげは6本ある



イチモンジタナゴ 8cm  
体高は低く、体の側面には太く明瞭な「一」文字と見える線がある

希少種(環境省のレッドデータブック掲載種)のうち、約1/4にあたる24種が確認されました。田んぼのまわりでも希少種がすんでいます。なかでもメダカは168の地域で新たに見つかりました。メダカなどの希少種を守るためにも、これからも継続的な調査をする必要があります。



# 調査2 田んぼのまわりには、どんなカエルがいるのだろう？

**田んぼのまわりにすむカエルたち** カエルの調査では、4科19種の確認されました。これは、日本に生息するカエルの全42種の約45%にあたります。もっとも確認地点数が多かった種はニホンアマガエルで、またノサマガエル、ヌマガエル、トウキョウダルマガエル、ツチガエルも多く確認されました。

## ニホンアマガエル

ニホンアマガエル  
体長 3cm

もっとも多く、各地で見られるよ。

## 希少種

トウキョウダルマガエル  
★(準絶滅危惧)  
体長 6cm

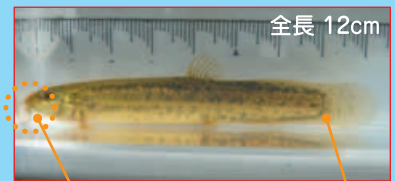
仙台から関東だけで見られるよ。

東海から中国地方で見られるよ。

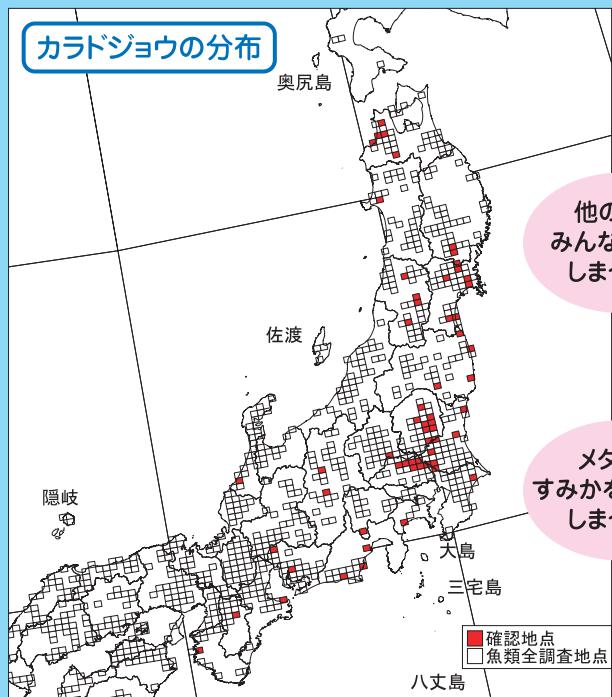
ナゴヤダルマガエル  
★★★(絶滅危惧IB類)  
体長 6cm

## TOPIC

カラドジョウの分布がわかったよ。



10本の長い口ひげ 尾の付け根が太い  
日本のドジョウより強いといわれているカラドジョウについて、重点的に調査を行ってきた結果、東日本を中心に各地に分布していることが明らかになりました。これからも、分布の広がりなどに注意し、引き続き調査を続けることが必要です。



生態系に大きな影響を及ぼす外国から来た生きもの。魚ではオオクチバス(ブラックバス)、カダヤシなど15種、カエルではオオヒキガエル、ウシガエルの2種が見つっています。これらの広がりなどについて、分布状況を監視し調査を続けていくことが大切です。

とくしていらいせいふつ  
■調査で確認された特定外来生物※  
※「外来生物法」により、飼育、運搬・保管などが規制された外来生物のことです。

<p>他の魚をみんな食べてしまうんだ</p> <p>オオクチバス 40cm 口が大きく、背びれが前後2つに分かれている</p>	<p>オオヒキガエル 12cm 体は太く頑丈で、体色は茶色系である</p>
<p>メダカのすみかをうばってしまうんだ</p> <p>メダカ 4cm メダカに似るが、しりびれの基部は短い</p>	<p>ブルーギル 25cm 体高は高く、えらぶた後端に濃紺の斑がある</p>
	<p>ウシガエル 16cm 目の横に大きな鼓膜があり、いつも水辺にいる</p>

## 調査結果

全国のみんが参加し  
1万地点以上で調査しました

- 小学生や地域住民を含め、延べ2,173団体、2万人以上が参加しました。
- 生きものや田んぼのまわりの環境についてみんなで考えました。
- みんなが参加できる調査方法は、専門家と相談しながら決めました。

## わかったことは

- 全国の田んぼまわりの生きものの分布がわかりました。
- 魚124種(全種の約4割)、カエル19種(全種の約5割)の分布がわかりました。田んぼのまわりは、生きもののおおきな場所になっています。
  - 多くの希少種も田んぼのまわりで見つかりました。
  - 外来種が各地に侵入していることがわかりました。
- 生きものが好む環境が少しわかりました。
- 魚の種類によって、農業水路を好むものと川を好むものが違います。
  - ドジョウは土の水路を好みます。コンクリートの水路でも底にドロがある水路には多くいます。

## 今後の展開

- |              |                          |
|--------------|--------------------------|
| まず田んぼに入ってみよう | たくさんの生きものを知り、守っていこう      |
| 生きもの大切さを伝えよう | 田んぼや水路のいろいろな役割を伝えよう      |
| 希少種とその環境を守ろう | 田んぼの生きものとともに暮らせる取組みを進めよう |
| 外来種の侵入に注意しよう |                          |

田んぼや水路を学びの場、遊びの場としてとらえ、田んぼの生きもの調査の取組みの輪をさらに広げていきます

- |             |              |
|-------------|--------------|
| ○調査方法を工夫します | ○調査対象を増やします  |
| ○参加者を増やします  | ○リーダーを育てます   |
| ○成果をよくまとめます | ○地域づくりに活かします |